

震災復興意見交わす

現地派遣の学生ら報告

で
山
岡
フォーラム

東日本大震災で被災した岩手県大槌町へ8月、学生ボランティアを派遣した岡山経済同友会は23日、岡山市北区柳町の山陽新聞社さん太ホールでフォーラム「震災復興と岡山のボランティア」学生たち」を開いた。学生や支援団体の代表ら6人が、被災地の現状や支援策について意見を交わした。

同友会は、大槌町で支援を続ける国際医療



被災地の現状や今後の支援策について話し合う学生ら

ボランティア・AMD A（本部・岡山市）の生36人が、津波被害を受けた中学校の片付け

などに取り組んだ。昨年が続いて参加した環太平洋大3年炭田優也さん(21)は「1年が過ぎ、復興が進んでいると思っていたが、がれきが片付いたばかりは何も変わっていないかった」と被災地の現状を報告。くらしき作陽大4年渡部絵里香さん(22)は地元中学生との交流会で「積極的に話し掛けることで、遠慮がちだった生徒が心を開いてくれた」と話した。

今後の支援についてAMD Aの菅波茂代表は、仕事を求めて町民が流出している状況を

踏まえ、「一般の賛同を得て資金を募り、漁業関係者に船の購入資金を貸し付けることで自立を支えたい」と提案。約150人が耳を傾けた。(岸研二)